

.....「史料紹介コーナー」.....

平成27年度も、各都道府県出身の陸海軍将官の中から毎号一人を取り上げて、戦史研究センター史料室が所蔵するその人物などに関連する史料を紹介しています。

《 ^{いそだ さぶろう}磯田 三郎 1892~1979年 《
 一群馬県出身の陸軍中將一



昭和14年度 状況報告綴 (登録番号：支那-支那事変北支-918)

磯田三郎中將は、大正2年5月、陸軍士官学校(25期)を卒業後、アメリカ大使館付武官、第22師団長、南方軍遊撃隊司令官などの要職を歴任しました。このうち昭和12年10月から昭和14年7月の間、磯田大佐は、第114師団参謀長を務めています。この史料は、第114師団の「昭和十四年度 状況報告綴」で、師団長が末松茂治中將から沼田徳重中將へ交代した時期に実施された磯田参謀長の「状況報告」(昭和14年3月23日付)が綴られています。これによれば第114師団は、支那事変勃発に伴い昭和12年10月に編成された特設師団で、翌11月に杭州湾に上陸、昭和13年2月には北支に転戦して同地域の治安戦に従事し、603回の戦闘で27万余の敵と交戦したことなど、出征以来の師団の作戦経過の概要や現況などが詳細に記述されています。



磯田三郎中將回想録 (登録番号：南西-ビルマ-377)

この史料は「磯田三郎中將回想録」で、終戦時、光機関長であった磯田中將が執筆した同機関の梗概史です。光機関の任務は、インド独立運動を援助するほかに、インド国民軍と日本軍との連絡を緊密にすることでした。主要な機関員は中野学校出身者で、昭和18年5月に岩畔機関(機関長岩畔豪雄大佐)から光機関に名称を変更しました。昭和19年3月にインパール作戦が開始されると、光機関は、ビルマやアッサムにおいてゲリラ戦を展開します。その成果について同回想録は、「インパール作戦失敗の為見るべきものが少なかった」としつつも、「ゲリラ戦的、諜報的、印度内部攪乱的な効果」及び「印度国民に及ぼした反響」は大なるものがあつたとし、「光機関の工作は大東亜戦争に関する諸工作中で最も成果を挙げたものの一つであつた」と記述しています。

《お知らせ》

史料保存のためのマイクロ撮影にともない、一時的に閲覧できない史料があります。詳しくは、防研ウェブサイト「閲覧が一時不能となる史料」をご覧ください。

※ 記事に関する御意見、御質問等は下記へお寄せ下さい。なお、記事の無断転載・複製はお断りします。
 防衛研究所企画部企画調整課
 専用線：8-67-6522、6588 (史料紹介コーナーのみ6668)
 外線：03-3713-5912
 FAX：03-3713-6149 ※ 防衛研究所ウェブサイト：<http://www.nids.go.jp>